

# 英語多読授業のオンライン実践報告

## Zoomと電子書籍の効果を探る

草薙 優加 深谷 素子 小林 めぐみ

### 本報告の背景と目的

英語多読授業において多読がルーティン化した結果、読書への意欲を失う学習者は少なくない。本研究グループは、そのような学習者の読書意欲を活性化するために、授業運営の工夫や読書アクティビティ導入を積極的に行ってきた。ところが、今般の新型コロナウイルス感染拡大により、教室内で紙の書籍を使って多読授業を行うことができないという事態に至った。多読実践の要は多読用書籍へのアクセスと教室で行う授業内多読である。代替手段として編み出したのが、多読用電子書籍と Zoom を使用した「双方向型オンライン多読授業」という新しい多読授業の形である。本発表では、まず「双方向型オンライン多読授業」の具体的な実践方法を紹介したうえで、対面式とオンライン形式の長所・短所について、学生へのアンケート結果もあわせて報告する。全面オンラインという、一見不利に思われる教育環境下でも実現可能な多読教育のためのヒントを共有したい。

### 双方向型オンライン多読授業のコンテキストと多読用電子書籍の活用

著者らは、2020年5～12月に人文社会学系専攻大学1～2年生（計127名）対象の計4クラス（半期1、通年3、各週1回）でZoomによる双方向型多読授業を実施した。各授業で授業内外多読とリーディング活動を行った。

まずとりかかったのはオンラインで読める多読用電子書籍の確保である。多読を実践する教員のネットワークを利用して情報収集を行った（図表1）。図書館が使用できないというハンディを感じさせないために心がけたのは、多様なレベルとジャンルの電子書籍を確保することである（下線を引いたサイト名で検索可能）。

無料の ebook サイト	<u>Oxford Owl</u> : Oxford Reading Tree シリーズの一部が無料で読める。 <u>Internet Archive</u> : Magic Tree House, Who Is/Was? シリーズの一部が無料で読める。 <u>Storyline Online</u> : 著名人による英語の絵本の朗読が聞ける。
有料の ebook サイト	Kindle : 古典をはじめ無料本あり
所属大学図書館が契約している ebook サイト	<u>Maruzen eBook Library</u> : Foundation Reading Library, Cengage Page Turners, Macmillan Reader シリーズの一部が読める <u>X-Reading</u> (インターフェースがすべて英語、複数シリーズ、朗読音声やクイズあり)
研究費を利用して契約した ebook サイト	<u>e ステーション</u> (YL=読みやすさレベルで検索可能、インターフェースが日本語、朗読音声やクイズあり、ラダーシリーズを含む複数シリーズが読める。)

図表1 使用した多読用電子書籍一覧

### 読書記録の電子ファイル化

多読授業では、本の内容の理解度をテストしない代わりに、読んだ本の語数やレベル、簡単な感想メモ等の読書記録を最重要視する。記録することで読書量が可視化され、動機づけになるだけでなく、各自が読書履歴を常に振り返ることでメタ認知を促す効果も期待される。「今週は何語読んだから来週はもっと読もう」、「1ヶ月後にはYL 2.0の本が読めるようにしよう」など、明確な目標を立てることが読書量の増加につながる。対面授業では紙で記録させていたが、オンライン化に伴い Excel のスプレッドシートで記録フォームを作成した（図表2）。その最大のメリットは語数の自動計算だが、多読用電子書籍情報の一元化も極めて有益だった。読書記録用 Excel ファイルには、語数を自動計算する記録シートだけでなく、電子書籍サイト一覧とアクセス方法、使用頻度の高いシリーズの書

Weekly Report						
		Name				
		Student ID				
Extensive Reading Record		冊数	語数	レベル	→ 前週末に報告	
		冊数	語数	レベル		
No.	日付	タイトル	シリーズ	YL	語数	冊数
1	e.g. 4/9	Apollo 13	PGR 2	2.2	8,300	①
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
SUM					0	
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
SUM					0	

図表2 読書記録用 Excel ファイルの読書記録シート

籍一覧 (YL、語数情報入り) へのリンクを集約した別シートを添え (図表 3)、本ファイルのみで多読用書籍に関する情報管理を可能にした。履修者は毎週この読書記録ファイルを、学内 LMS を通して教員に提出する。デメリットとしては、提出されたファイルを開いて記入内容を確認しフィードバックする作業が思った以上に教員の負担になったことが挙げられる。紙の記録用紙なら一目で記入内容を確認し、ペンでコメントを記入すればよかったが、これをファイル上で行うといわゆる「クリック地獄」に陥ってしまう。さらなる改善の余地があるだろう。

ebookアクセス先	アクセス方法	ebookで読めるシリーズ名	語数検索先 (クリックするとそのままサイトに飛びます)
Maruzen eBook Library	① 大学HPトップページの図書館にカーソルを合わせる。	Foundation Reading Library	このファイルのFRLのシート
	② 青く色が変わった部分の左から3番目「学認サービス」をクリック。	Macmillan Readers	このファイルのMMRのシート
	③ 開いたページの下の右側にスクロールすると「利用可能なサービ・システム」という文字の下に一覧表がある。	Page Turners	<a href="https://www.lib.tajimi.gifu.jp/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%BSNEW/CPT.pdf">https://www.lib.tajimi.gifu.jp/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%BSNEW/CPT.pdf</a>
	④ 表の一番上、Maruzen eBook Libraryをクリック。	Penguin Readers (Pearson)	<a href="https://www.seg.co.jp/sss/YL/PER.html">https://www.seg.co.jp/sss/YL/PER.html</a>
	⑤ 「>後開認証」の下の「学認アカウントをお持ちの方はこちら」という欄の「>」をクリック。大学名をプルダウンで選択した後、大学の認証画面になったら認証ID、認証パスワードを入力。IDは○○○○、PWは入学時にもらったPWを入れる (自分で変更した場合は、変更したPW)。	Read Smart Readers	<a href="http://www.lib.tottori.u.ac.jp/news/2018/tadoku_rsr.pdf">http://www.lib.tottori.u.ac.jp/news/2018/tadoku_rsr.pdf</a>
	⑥ これ「Maruzen eBook Library」のトップページが開く。		
	⑦ 左欄の「出版社/提供元」からセンジャー・エッジをクリック。		
	⑧ 上記の「検索」にFoundation Reading Libraryと入力検索すると、このシリーズ一覧が表示される。上の表を参考に自分に合ったYLの本 (帯いものから) を選ぶ。「開覧」をクリックするとページが表示されるので、読む。		
	⑨ 読後、リストに必要事項を記入。		
	⑩ 右上の「開覧終了」をクリックし、さらに学認サービスをログアウトする。その後、読者のために必ずログアウトしてください。		
Oxford Owl	① Oxford Owl: Free eBook Libraryにアクセス <a href="https://www.oxfordowl.co.uk/for/home/find-a-book/library-page">https://www.oxfordowl.co.uk/for/home/find-a-book/library-page</a>	Oxford Reading Tree	<a href="https://www.seg.co.jp/sss/YL/ORT.html">https://www.seg.co.jp/sss/YL/ORT.html</a>
	② My Class login (My class nameとMy class passwordは○○○○)	Oxford Reading Tree InFact	<a href="https://www.seg.co.jp/sss/YL/ORTI.html">https://www.seg.co.jp/sss/YL/ORTI.html</a>
	③ eBooks→My Bookshelfをクリック、好きな本のアイコンをクリックして読む。	Oxford Reading Traditional Tales	<a href="https://www.seg.co.jp/sss/YL/OTT.html">https://www.seg.co.jp/sss/YL/OTT.html</a>
	④ 読後、リストに必要事項を記入	Oxford Reading Floppy's Phonics	<a href="https://www.seg.co.jp/sss/YL/ORTFP.html">https://www.seg.co.jp/sss/YL/ORTFP.html</a>
		Project X	<a href="https://www.seg.co.jp/sss/YL/index.html">https://www.seg.co.jp/sss/YL/index.html</a>

図表 3 多読用電子書籍情報シート (読書記録用 Excel ファイルに添付)

## アクティビティおよび授業形式のオンライン対応

対面での多読授業同様、オンラインでも多読への意欲を維持する必要があるが、プラットフォームの (1)チャット機能、(2)グループ分け機能 (Zoom のブレイクアウトルーム)、(3)アンケート機能等を有効活用することで、対面授業とほぼ遜色ない授業環境を整えることができた。ここでは、この 3 つの機能に焦点を当てて紹介する。

### (1) チャット機能

チャット機能は、オンライン授業で質問がしやすくなったと学生から好評を得たが、チャットは質問だけでなく、学習者が周囲の受講者の様子を知るチャンネルともなりうる。例えば、推薦図書紹介の前にチャットで一斉に自分が紹介する本の題名を送ると、短時間で級友が紹介する本を目にすることができる。オンライン対応では、「顔出し」を好まない学習者も多く、無機質になりがちであるが、チャットによる情報共有で、少しでも仲間の存在を意識させ、オンラインでの授業参加をより活発にする呼び水になる効果があると考えられる。

### (2) グループ分け機能

多読関連のアクティビティで主力をなすのが推薦図書の紹介だが、オンラインのグループ分け機能を使えば、教室内で小グループに分かれて紹介する方法とほぼ変わらない。例えば受講者を 3~4 人のグループに分け、1 人約 4 分で推薦図書の紹介を行うアクティビティでは、読んだ本を見せるかわりに、事前に準備したスライドを画面共有しながら紹介してもらった。画面共有による資料の閲覧は、教室で見ると見やすく、スライドを作成することで紹介する内容をより吟味する効果があったと考えられる。なお、スライドは、掲示板機能 (Padlet というアプリを使用) を使えば共有が容易で、学習者は他のグループのスライドも後から閲覧できる。この方法で対面型授業よりも手軽に情報共有ができた。

さらに、グループ分けの機能で一人ひとりを「個別ルーム」(例: Zoom のブレイクアウトルームに 1 人ずつ入れる) に送り出せば、個別面談もプライバシーを確保しながら実施できる。受講者全員が個別ルームで多読に取り組んでいる間に、教員が特定の個別ルームを回って指導・相談にあたる方式である。したがって授業内多読と個別面談の実施も大きな支障はなかった。しかし、教室と違ってオンラインでは学習者全体の様子を把握しづらく、読書に集中できない学生にその場で声をかけられないため、効果的な仕掛けづくりがさらに必要となった。これには、授業の終了前に読んだ本や心に残った一言を手短かに報告させるなどの工夫をした。

### (3) アンケート機能 (Forms 等) の利用

アンケート機能も、学習者全体のモニターがしづらいという欠点を補う上で役に立った。対面型授業でも毎回の授業の振り返りを実施していたが、オンライン授業では Forms を使って情報収集を行った。迅速に結果を集計・グラフ化でき、全体の傾向や各学生が直面している問題なども把握するのに有効であった。

多読授業におけるオンライン対応のメリットとデメリットを教員の視点から総合的に示すと図表 4 となる。オンライン授業開始前は、オンライン授業は対面授業よりも劣っているという見方が多かったと推測されるが、実際にはより効果的な指導ができた側面もある。一方、コミュニティとしての教室の意義やピア効果の面で

は、さらなる改善が必要と考えられる。

◎	○	△	×
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有や質問（チャット機能、録画機能、Forms 利用）</li> <li>・資料提示（画面共有、Padlet）</li> <li>・個別面談のプライバシー確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多読用図書の準備（電子図書）</li> <li>・読書記録（集計簡易化、紙の記録の紛失防止）</li> <li>・アクティビティ（ブレイクアウトルームの活用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レベル診断テスト（漏洩の心配）</li> <li>・授業の振り返りに対する教員の個別フィードバック返却</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書の様子を観察</li> <li>・個別の軽い声かけ</li> <li>・教員からの指示やアクティビティ等以外での受講者同士の交流</li> </ul>

図表 4 双方向型オンライン多読授業のメリット・デメリット比較

### 双方向型オンライン多読授業の成果

通年 3 クラスの受講生に対する事後アンケートの結果を示す（図表 5）。97 名中 87 名から回答があった。図表 5 で示した%はリカート式 5 段階評価の肯定的な反応「4=そう思う、5=強くそう思う」の合計を示したものである。「多読に興味が増えた」「英語力向上に効果があった」への肯定的な回答は 8 割以上で、オンライン授業でも過去の対面授業と変わらず高評価を得ている。また他の結果もこれまでのアンケート結果とほぼ変わらないものであった。授業内多読やアクティビティ導入に関し対面授業とほぼ遜色のない多読授業を行うことができたことと上述したが、本アンケート結果もそれを裏付けている。

アンケート項目	肯定的回答	アンケート項目（続き）	肯定的回答
1 多読に興味が増えた	87.4%	5 多読を継続したい	67.8%
2 英語力向上に効果があった	83.9%	6 後輩に勧める	58.8%
3 適切な選書ができるようになった	77.0%	7 日本語に訳さずに読める	56.3%
4 読書への興味が増した	74.7%	8 読書習慣がついた	54.0%

図表 5 双方向型オンライン多読授業に関するアンケート結果 (n=87)

また電子書籍についても同様の方法で問うたところ、読みやすさでは電子書籍を好む回答者が若干多かった。内容把握は紙の書籍の方が電子書籍よりつかみやすいと回答した者が多かったが、どちらでもないが大多数であり、多読の環境や目的で使い分けている様子が見えてくる。内容の記憶定着では、両者間で回答者の認識にほぼ差がなかった。予測されたとおり、電子書籍使用時の目の疲労度を訴える率が高かった（図表 6）。

電子書籍は...	否定的回答	「どちらでもない」への回答	肯定的回答
1 紙の本より読みやすい	34%	27%	39%
2 紙の本より内容をつかみやすい	27%	57%	16%
3 紙の本より記憶に残りにくい	30%	41%	29%
4 目が疲れる	10%	24%	66%

図表 6 電子書籍に関するアンケート結果 (n=87)

### まとめと展望

本研究の現段階での結論は、「Zoom や電子書籍を活用すれば対面授業と変わりなくオンラインでの多読授業の実践が可能であり、効果が上がる」と言える。多読授業には、対面・オンラインの別なく同内容の授業を提供できる強みがあることは特筆に値する。今後は、オンラインでの多読授業をさらに充実させるためのオンライン・アクティビティの実践と調査を行いつつ、教室コミュニティの活用やピア効果など対面授業ならではの利点をオンライン授業に取り込む工夫も欠かせないと考える。対面授業にもオンライン授業で得た知見を取り入れたい。

### 注

- 1 本稿は科研費研究課題「能動型学習を目指す英語多読指導に役立つアクティビティの開発と選定」（研究課題番号 16K02836）の助成を受けている。
- 2 著者らの先行研究は、注 1 の研究成果紹介サイト上の「これまでの研究活動」を、授業内多読活動は「アクティビティ一覧」を参照されたい。 <https://www.tsurumi-u.ac.jp/research/20200201/#other>